

第5次八雲地区地域福祉活動計画 (計画期間：平成31年度～平成35年度)



声かけあってささえあう

誰もの笑顔が見えるまち

八雲地区社会福祉協議会



はじめに

平成12年6月に施行された社会福祉法で、社会福祉協議会は地域福祉を推進する担い手として位置づけられました。これにより、従来にも増してその使命は一層重要になりました。地域におけるきめ細かな福祉を推進するためには、住民の方々・諸団体等の意見を聞きながら、地域の福祉課題を的確に把握して、課題解決のための目標を定める一方、日々変化する要望にも臨機応変に対応して、住民が安心して、その人らしく生活できる地域づくりをすることが求められています。

この理念を具現化するため、平成16年度(八雲村当時)に第1次地域福祉活動計画を策定し、社会福祉協議会の進むべき方向と当面の福祉課題解決の指針を定め、事業を展開してきました。合併後松江市内28地区社会福祉協議会は、平成20・21年度の2年度について計画の見直しを行うことになりましたが、八雲地区社会福祉協議会は、基本的事項は変えず、ふくし井戸端会議での要望・意見、関係諸団体の意見等を反映するよう活動計画を策定し、推進に努めてきました。

この度の計画策定にあたっては、評価・見直しの対象事業を地区社会福祉協議会が主体で実施している事業のみとしました。その結果、なごやか寄り合い事業やふくし井戸端会議など、参加者及び支援者の固定化が否めない状況はありますが、どの事業も改善を重ねて継続していくこととしました。評価の過程で出た意見を基に、ふくし井戸端会議での要望・意見、各事業の関係者からの意見をふまえて計画を策定しました。地区社会福祉協議会の事業について、これまでと大きく変わるものではありませんが、加速する少子・高齢化により住民相互の支援はますます重要になっていきます。

本計画が、住民のみなさまのご期待に応えられる事業として展開していきたいと思えます。今後とも、みなさま方の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

平成31年3月
八雲地区社会福祉協議会
会長 須山 佐智美

第5次八雲地区地域福祉活動計画の基本的な考え方

第5次八雲地区地域福祉活動計画（以下、第5次計画）は、第4次計画の評価を行った結果、それぞれに課題は残るものの、地区社会福祉協議会として継続して取り組むべきものとして、今後の方向性を示す計画としました。

第4次計画に盛り込まれていた他団体が主催する諸事業について、第5次計画には記していませんが、地区社会福祉協議会として連携、協働していく考え方は変わりません。

第1次計画から引き継いできた基本目標「声かけあってささえあう、誰もの笑顔がみえるまち」は、分かりやすく長年親しまれてきたものであり、第5次計画のスローガンとして残しました。

八雲地区社会福祉協議会は、旧八雲村時代から継続してきた事業、なごやか寄り合い事業（平成3年開始当時「ミニデイサービス」）や給食サービス（平成2年開始）をはじめ、ふくし井戸端会議（旧地区福祉座談会）、八雲あんしんネットワーク等、今後も引き続き実施していきます。

少子高齢化が進む中で、住民すべてが安心して日常生活を送ることができる地域社会を目指して、関係機関・団体等と連携し、第5次計画の推進を図っていきます。

この活動計画は、八雲地区社会福祉協議会が目指す方向を示したものです。各事業の取り組みについては、年度ごとにお知らせしていきますので、今後ともより一層のご支援とご協力をお願いいたします。

第5次八雲地区地域福祉活動計画表

スローガン:声かけあってささえあう 誰もの笑顔が見えるまち

区分	活動名	みんなの声（実態調査から）	活動目標	具体的な取組内容
充実	なごやか寄り合い	<ul style="list-style-type: none"> ★社協の支援と自治会の協力が必要 ★参加者が固定しすぎて外の人、新たな人が入りづらい ★会場までの交通手段の確保（送迎） ★運営ボランティア、送迎ボランティアの確保 ★お出かけなどはスタッフが少人数のところでは困難 ★幼・保（小）との交流、可能性の検討 ★男性の参加を進める ★誰もが参加し、協力したいPRの内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者自身が主体的に企画運営しよう ●地域住民の力で推進、継続できるようにしよう ●参加者・支援者の固定化を防ぎ、誰でも参加できるようにしよう ●なごやか寄り合いを安心して参加しやすくしよう ●なごやか寄り合いの目的、具体的内容等、自治会を通じてPRする 	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域で開催できる仕掛けづくり（保健師、地域包括支援センターの出前講座） ・未実施地域の把握と支援 ・なごやか寄り合い運営ボランティアのスキルアップ ・運営・送迎ボランティアの確保、拡大 ・地区間の交流についての働きかけと支援 ・立ち上げ助成の周知 ・個別に新規立ち上げ地区への声掛け
充実	子育てサロン	<ul style="list-style-type: none"> ★女性の就労が多くなり、在宅で子育てする方が少なくなっている ★就労している方でも参加しやすい場にするにはどうしたらよいか ★現在の活動が継続して行えるよう支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ●気軽に参加、相談できる事業を開催しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンの開催 ・子育てネットワーク会議
充実	合同研修会	<ul style="list-style-type: none"> ★福祉推進員の参加者が固定化している ★研修内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関・団体等との情報交換と情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉推進員、民生児童委員の連絡会・合同研修会の開催
充実	健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ★継続した健康への意識づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●介護予防講座、健康教室等に参加し健康づくりに取り組もう ●健康まつえ21推進隊事業に取り組もう 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防講座の実施 ・なごやか寄り合いでの情報提供 ・なごやか寄り合いで保健師参加の健康相談、教室の継続実施
充実	八雲あんしんネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ★継続した参加団体間の情報共有 ★隣近所・近隣からの相談はほとんどない ★町内で移動に困難を抱える人が増えてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者・障がい者の声を聞く場をつくる ●地域で安心と安全の見守り・支えあい運動を実施しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・八雲あんしんネットワークの周知 ・町内企業の現状把握、必要性の検討 ・八雲町内での移動手段について検討
充実	要配慮者支援会議	<ul style="list-style-type: none"> ★要援護者支援会議設置個所の拡大・推進が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で安心と安全の見守り・支えあい運動を実施しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者支援推進事業研修会の実施の検討 ・事業拡大していくためのサポート
充実	給食サービス	<ul style="list-style-type: none"> ★調理・配食ボランティアの後継者不足 ★利用者の食事の好みを把握する ★ボランティア間の接点が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的な見守り活動を継続していく ●住民ボランティアの活躍の場所を残していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食、配食ボランティア共に要員確保に努める ・給食サービスパンフレットの作成と周知 ・利用者に対してのアンケート調査 ・ボランティアも交えての給食会の開催
充実	歳末見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> ★しめ縄の作り手がない ★今後事業継続していくための形を検討する必要がある ★選択項目を増やし項目ごとの単価バランス考慮をする ★希望品目について、もらう人の意向を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ●明るい正月を迎えてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳末見守り活動の実施

区分	活動名	みんなの声（実態調査から）	活動目標	具体的な取組内容
充実	福祉推進員	★役割意識が浸透しきっていない ★輪番制の推薦があり、活動・参加が難しい地区がある	●身近な福祉の協力者を増やす	・日常の見守り、支え合い活動、なごやか寄り合いの実施主体 ・福祉推進員の選出方法・役割のPR ・自治会内複数人での推進員活動の推奨
充実	生活困窮者への取り組み	★住民が八雲町内での困窮者の現状を知らない ★ニーズをキャッチしてもどこにつないでいいのかわからない	●普段からの近所づきあいを意識する	・生活困窮者の実態把握 ・八雲あんしんネットワーク会議での周知
充実	地区社協だよりの発行	★地区社協の活動を知らない住民もいる	●なごやか寄り合いの様子を地区社協だよりで情報提供する ●地区社協の活動や地域の福祉活動を広く住民に周知する	・地区社協だよりの発行（年2回） ・社協だよりで、なごやか寄り合い実施状況やボランティア活動紹介（取り組みの成功例や参加の楽しさなど）を行う
充実	町内ボランティア	★ボランティアの把握、支援の必要性の検討 ★ボランティアの要望の把握の検討	●たくさんの人に地域福祉を理解してもらい活動に参加してもらおう ●ボランティアに参加しよう	・各地域で人材発掘調査 ・ボランティア養成講座開催の検討
充実	ふくし井戸端会議	★井戸端会議のテーマの検討と開催の方法 ★前年度分の振り返りを必ず行う ★会場によっては、地域の参加者よりも主催者側の参加者が多い所があった	●井戸端会議を通じ、住民の福祉ニーズの把握と福祉活動の啓発をする	・より多くの住民参加を促進するテーマ設定 ・小地域の開催を継続し、地区社協理事にも積極的に参加してもらおう ・前年度分の振り返りを行う
充実	関係機関・団体との連携	★各種関係団体も課題をかかえている	●関係機関・団体等との情報交換と情報の共有 ●気軽に参加、相談できる環境をつくろう	・各種団体がかかえる課題に対して、地区社協としての役割があるものは何かを検討

第5次八雲地区地域福祉活動計画策定の経過

■策定委員会（理事会）の開催

開催日	会議	協議事項
5月24日	第1回	・地域福祉活動計画とはなにか ・その他
11月13日	第2回	・第4次計画の振り返り、課題整理
2月5日	第3回	・第5次計画に挙げる事業の振り分け、課題整理 ・新たな項目について意見交換
3月26日	第4回	・第5次計画の実施計画表について

■小委員会

開催日	研修会	内 容
10月4日	星キラくらぶ	・子育てクラブ参加者から意見を聞く
11月21日	給食サービス 調理・配食ボランティア	・課題、改善策（案）について 意見交換
12月12日	なごやか寄り合い 福祉推進員	・課題、改善策（案）について 意見交換

■三役会

開催日	内 容
5月8日、9月11日、10月31日 12月28日、1月18日、2月27日	・経過報告、課題整理、まとめ

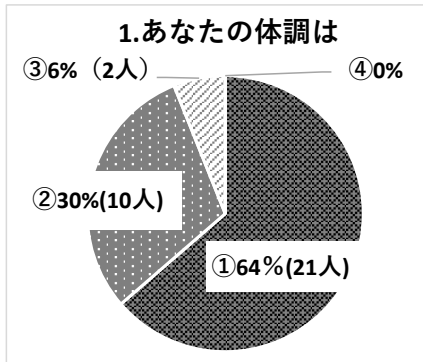
■ふくし井戸端会議の開催

テーマ：～見つめなおそう。八雲の助け合い活動～

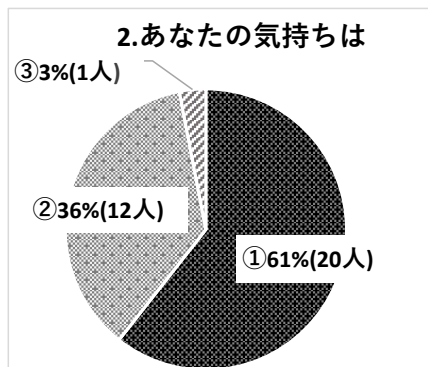
開催日	地区名	参加者
8月18日	別所ほほえみ会館	20名
8月18日	日吉ふれあい会館	23名
8月26日	平原会館	16名
8月26日	秋桑すこやか会館	18名
9月1日	八雲郷土文化保存伝習施設	15名
9月2日	八雲公民館	15名
9月2日	森脇公民館	11名

八雲あんしんネットワーク 生活の不安に関する聞き取り調査項目 (子育て世代)

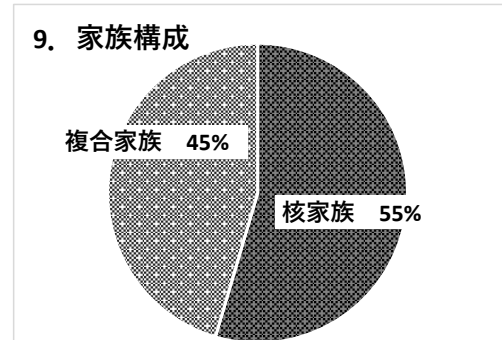
回答者数 33名 (訪問時に調査を実施)



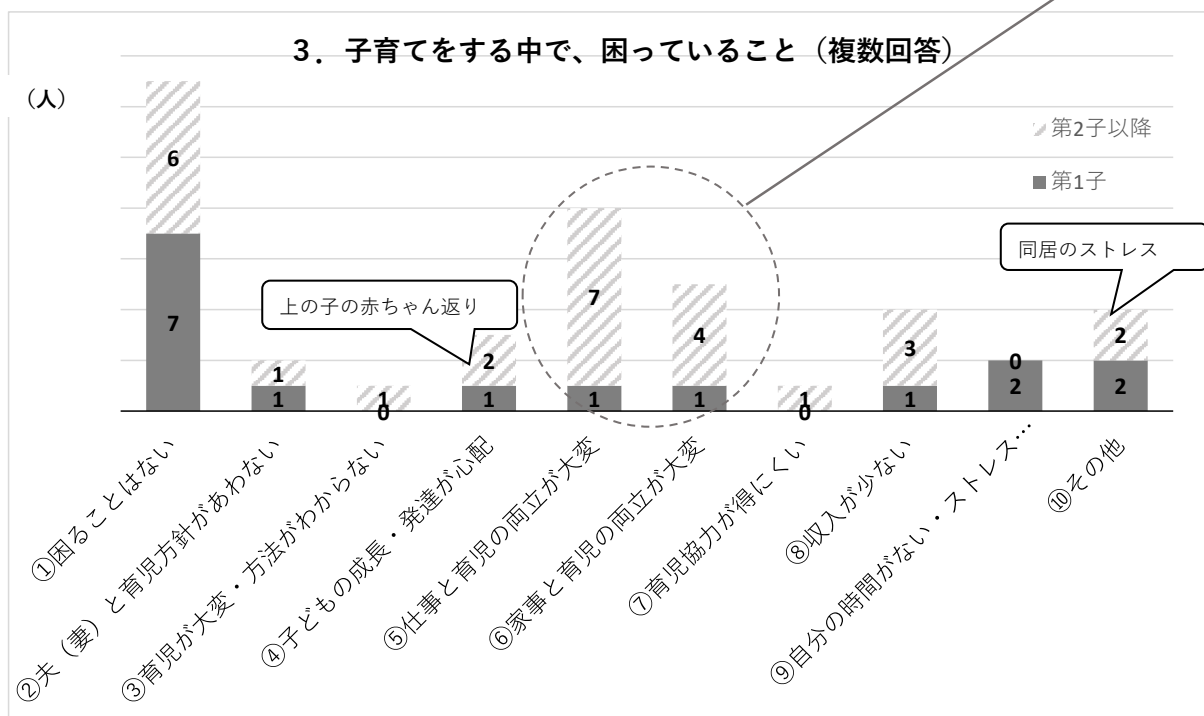
- ①よい
- ②まあよい
- ③あまりよくない
- ④よくない



- ①よい
- ②まあよい
- ③あまりよくない
- ④よくない

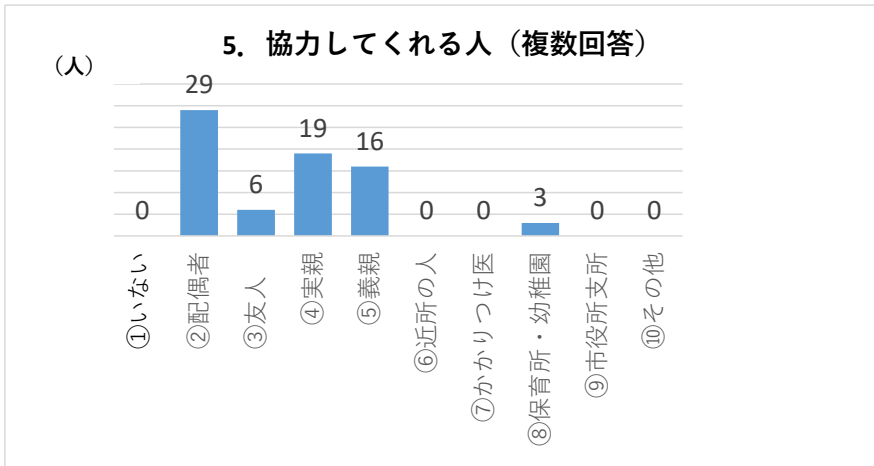
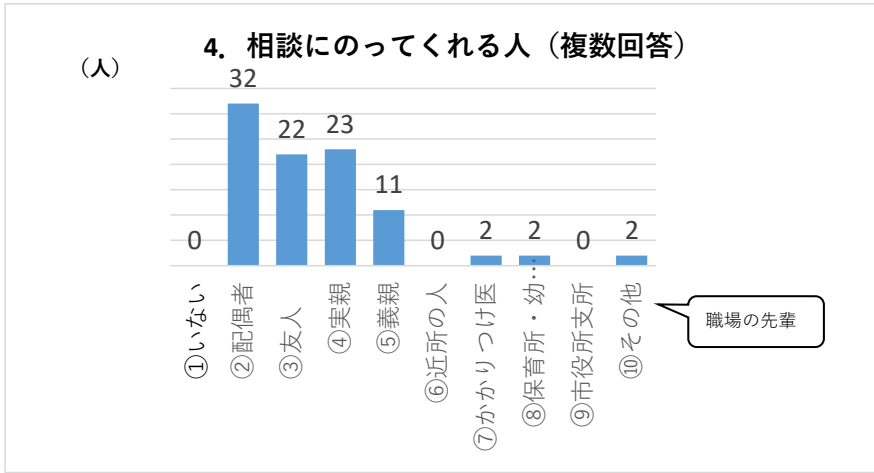


複合家族：3
核家族：7

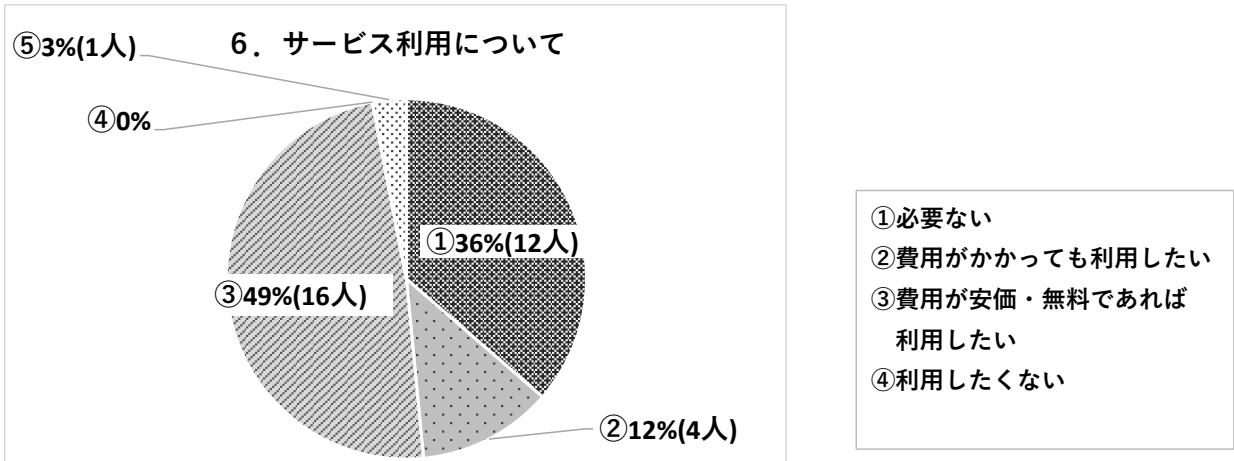


「仕事・家事と育児の両立が大変」との回答が多かった。第2子以降が特に多い。また、第2子以降になると、収入への不安も増加していた。

困り事はないと回答された方の中にも、今後仕事をはじめると、両立が大変そうという声もあった。複合家族など家族からのサポートがあるところは、仕事・家事と育児の両立の困り感は低かった。

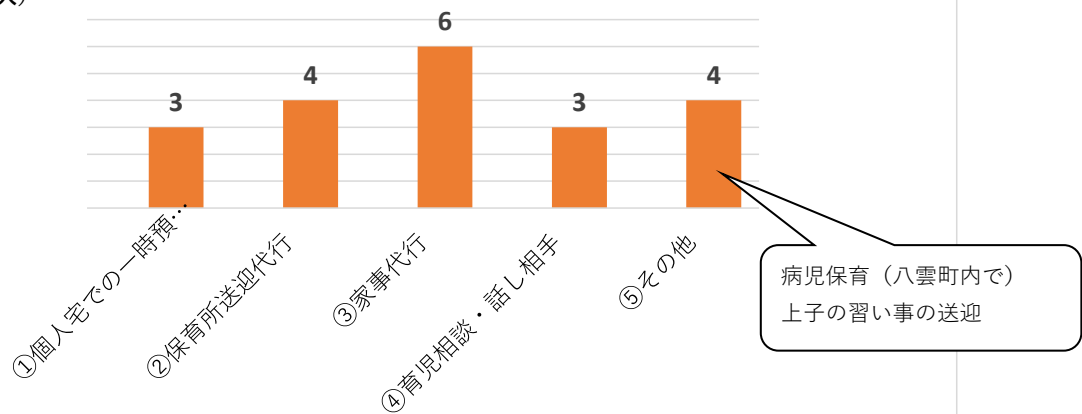


相談者や協力者がいないと回答した人はいなかった。第2子以降となると、かかりつけ医や保育所・幼稚園も相談先となっている。悩み事など相談・協力しながら育児できている家庭が多い。



安価・無料であれば利用したいと回答した人が一番多い。第2子以降になると、収入への不安をもつ人もおり、経済的負担の少ないサービスの需要が高い可能性がある。また、必要ないと回答した方の中には、「今は（育児休業中）必要ないが、今後は必要になってくると思う」と話された人もいた。

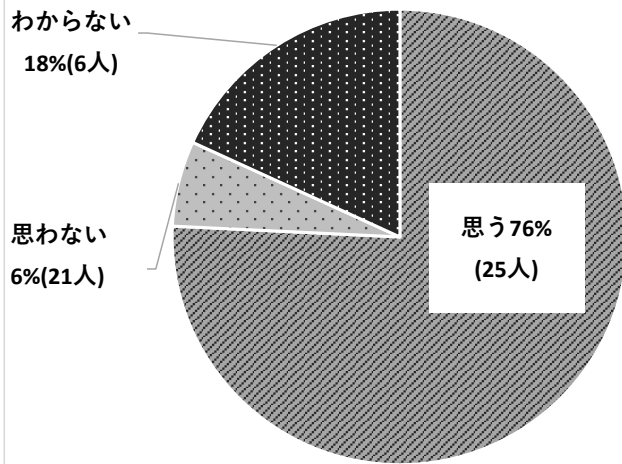
(人) 7. どのようなサービスがあると便利か(複数回答)



必要だと思うサービスは様々。家事・仕事と育児の両立への負担を軽減できる家事代行や保育所送迎サービスのニーズがやや高い。ファミサポ等の既存のサービスあり、知っている人も多かった。ただ、既存のサービスに対し、お金がかかる・もっと手軽に安価で使えるサービスがあると使いやすいとの反応も多くあった。自分の時間をつくるためにサービスを使いたいという意見もあるも、自分のためにお金を使うのは抵抗があるとの意見もあった。

安価・無料であれば利用したいと回答した方が多いように、既存サービスよりも安価で手軽に使えるサービスの検討が必要。

8. 八雲は子育てしやすいか



子育てしやすいと回答した人が多い。子育て施設やイベントが充実している、近所が声をかけてくれる、ほどよく便利といった声が多かった。一方で、授乳できるスペースを増やしてほしい、歩道がないところもあり危ないといった声もあった。